

## 瀬戸大橋開通と基盤整備の着手

## 瀬戸大橋線の開業

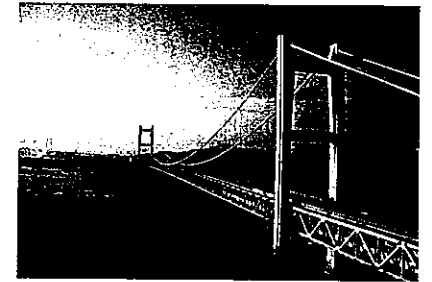
1988(昭和63)年4月10日、瀬戸大橋が供用開始された。

瀬戸大橋は、四国側から本州側にかけて並ぶ三つ子島、与島、羽佐島、岩黒島、横石島の5島を結ぶ、南備讃瀬戸大橋、北備讃瀬戸大橋、与島橋、岩黒島橋、横石島橋、下津井瀬戸大橋という6つの橋の総称で、橋梁部のみで9,368m、陸上の高架部を含めると約1万3,100mにもなる鉄道・道路併用橋である。2層構造になっており、2階部分は4車線の瀬戸中央自動車道、1階部分がJR本四備讃線の2線となっているが、将来新幹線が建設される場合に備えさらに2線敷設できる構造となっている。

瀬戸大橋線開業と同時に高松～岡山間には快速「マリンライナー」が1日19往復、宇和島・松山～岡山間には特急「しおかぜ」が5往復、中村・高知～岡山間に特急「南風」が3往復、徳島～岡山間には特急「うずしお」が定期列車1往復と臨時列車1往復で運転開始。あわせて、宇野で連絡船に接続していた東京直通の寝台特急「瀬戸」を高松まで延長した。

四国内主要都市から岡山への直通特急、快速運転による岡山、新大阪、東京への所要時間の短縮は右表のとおり。直通運転とスピードアップにより大幅なサービスの向上が実現した。

開業日には、高松駅で石原運輸大臣を迎えてテープカットなどの記念出発式が催されたほか、松山、高知、徳島、宇和島、宇多津の各駅でも盛大に出発式が行われた。



四国に新たな時代をもたらした瀬戸大橋

瀬戸大橋線開業による所要時間の変化

上段:開業後 (下段):開業前

	岡山	新大阪	東京
高松	58分 (1時間42分)	2時間2分 (2時間53分)	5時間 (5時間57分)
松山	2時間59分 (4時間49分)	4時間4分 (6時間5分)	7時間2分 (9時間4分)
高知	2時間54分 (4時間23分)	3時間59分 (5時間40分)	6時間57分 (8時間39分)
徳島	2時間20分 (3時間37分)	3時間24分 (4時間52分)	6時間22分 (7時間51分)

\*新大阪、東京までは新幹線の所要時間と乗り換え時間を含む

\*高松発は岡山まで快速利用、松山・高知・徳島発は岡山まで直通特急利用の場合

\*上り最速列車比較

高松駅の出発式において、伊東社長は「本州市圏との所要時間が短縮されることは、四国の産業・経済・文化にとって計り知れない影響があるものと確信する」と述べ、瀬戸大橋線開業の意義の大きさを強調するとともに、さらに「JR四国をとりまく環境はきわめて厳しいものがあるが、瀬戸大橋線の開業がもたらす効果を最大限に活用し、お客様に快適なサービスを提供できるよう全社員一丸となって取り組む」として、今後の決意を新たに示した。

瀬戸大橋線で開業日に運転された列車は、定期列車71本、臨時列車16本で乗車人員は下表のとおりであり、上々の滑り出しとなった。



高松駅で催された出発式

開業日の瀬戸大橋線乗車人員

列車名	上下別	上り (人)	下り (人)	合計 (人)
マリンライナー		16,400	17,200	33,600
しおかぜ		1,400	1,700	3,100
南風		970	560	1,530
うずしお		450	520	970
瀬戸		300	300	600
臨時列車		2,600	2,300	4,900
合計		22,120	22,580	44,700

### 高速バス事業への第一歩

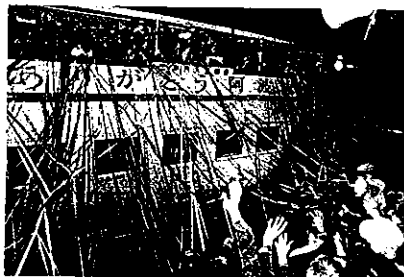
1988(昭和63)年4月10日、JR瀬戸大橋線の開業と同時に供用開始された瀬戸中央自動車道を通り、高松と倉敷を結ぶ「瀬戸大橋特急バス」も運転を始めた。それまでのJR四国のバス事業は、松山～高知間の「なんごく号」を除けばローカル路線が大半を占めていたが、初めて高速道路を通じて四国外へと進出したのである。後にローカル路線から高速バスへと重点を移し、体質転換の記念すべき第一歩であった。

### 宇高連絡船のフィナーレ

1910(明治43)年の開業以来、78年もの間四国への足として親しまれてきた宇高連絡船が、瀬戸大橋線の開業により大きな転機を迎えた。

高松～宇野間を結ぶ従来の連絡船とホーバークラフトは1988(昭和63)年4月9日で終航し、10日からは先に改装を済ませた讃岐丸が高松港を中心とした瀬戸大橋周遊観光船として再出発。さらに高松～宇野間を結ぶ高速艇「しおかぜ」は1990(平成2)年3月31日まで運航を継続した。

4月9日は、17時47分発の最後のホーバークラフトの出港にあわせて高松港でホーバークラフトの終航式を開催。続いて夜には高松と宇野の阿枝橋で、長らく連絡船と苦勞をともにした関係者とともに宇高連絡船の終航式を開催。高松22時47分発、宇野10時5分発の臨時便が最終となった。



宇高連絡船の終航

### 旅行業事業の再編

1987(昭和62)年の営業開始以来10年連続して増収を続けてきた旅行業であるが、1997(平成9)年に初めて対前年約4%の減少となった。景気の先行きに不透明感がある中にも旅行に対する根強い需要はあるものの、安くて、近くへ、短期間に旅行を楽しむ通称「安・近・短」という傾向があり、1人当たりの単価の下落が大きな要因であった。

このため、11年間拡大を続けてきた店舗展開であったが、採算性重視という観点からの統廃合を実施した。

さらに1991(平成3)年の発足以来続いた旅行業事業部であるが、翌12年11月1日に営業部と統合し、新しい営業部の発足となった。これは社内の営業系と販売系を一本化し、双方が持つ強みを発揮するとともに、弱点を補強することで会社全体の営業力・販売力を強化し収入確保に努めることを目的としたもので、これにより「再出発」の道を歩んだ。

### 大型プロジェクトの進行

#### ◇高松港頭地区総合整備事業(サンポート高松)

香川県と高松市とが進めていた高松駅周辺の再開発事業の進展に伴い、JR四国は本社内に高松駅周辺整備推進室を1993(平成5)年に発足させ、駅や指令所施設の移転計画策定、本社ビルの設計などを進めてきた。

1995(平成7)年度に入り、客貨車検修施設



3代目高松駅舎と日本社

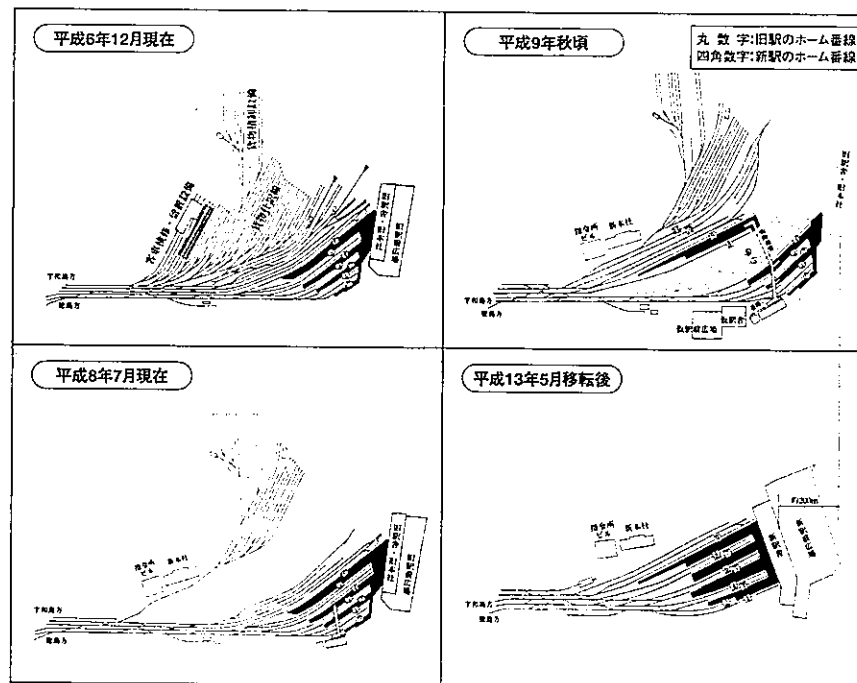
の跡地には7月に指令所ビル、11月に本社ビルの建設工事が開始される一方、高松駅構内の不要な線路の撤去、貨物線の移転、仮こ線橋と地下道の新設が進められた。

1996(平成8)年には、貨物仕訳線のあった場所で新8・9番ホームと留置線の建設に着手。9年に新8・9番ホームが完成すると、旧3・4番ホームの撤去にとりかかり、跡地に新6・7番を建設。完成後は旧1・2番を撤去し、跡地に新4・5番を建設という順序で2001(平成13)年5月の移転終了まで続けられた。

1995(平成7)年に着工した指令所ビルと本社ビルが1997(平成9)年に完成の運びとなる。新しい高松指令所では5月から運行管理システムの使用を開始したほか、本社ビルでは9月から社内LANシステムの稼働を開始した。一方で、高松駅の移転後駅前に開業するホテルの経営主体として10月に㈱ジェイアール四国ホテル開発を設立し、ホテルの建設も始動した。

さらに1997(平成9)年4月には線路南側で高松駅仮駅舎の建設に着手。12月には仮駅舎での営業が始まり、この後旧高松駅駅舎の解

### 高松駅と構内の設備移転手順



体に取り掛かると、すぐそばで2000(平成12)年3月に新しい高松駅駅舎の建設が始まった。新駅舎は旧駅舎の約200m西に位置し、広い駅前広場が生み出された。

また、旧高松駅の駅前にある棧橋から発着していた観光船「讃岐丸」であるが、高松駅構内移転工事が進む中、1992(平成4)年に駅から約500m東の県営棧橋発着となり、その後1996(平成8)年11月に終航を迎えた。24日の最終航海記念式では、大勢の人たちが別れを惜し



開発が始まる直前の高松駅周辺

む中、静かに岸壁を離れ歴史の幕を閉じた。

#### ◇宇和島駅ビル

愛媛県南予地区の宇和島市において、愛媛県施行の国道320号バイパス事業に関連する都市計画が1988(昭和63)年4月に決定。この計画ではJR四国の宇和島駅が支障することから駅舎を改築し駅前広場を改修、あわせて宇和島市の玄関作り、駅周辺の開発に関して地元からの要望を受けてホテルを駅舎に合築することとなった。

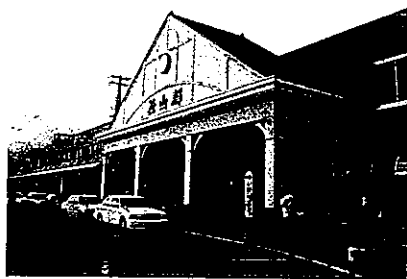
これに先立ち、1995(平成7)年12月12日にホテル業、料理飲食店業等を主な事業内容とする宇和島ステーション開発(株)をJR四国の全額出資により設立。1996(平成8)年10月1日に宇和島駅が仮駅舎へ移転し、同年12月17日に起工式の運びとなった。

工事は順調に進み、1998(平成10)年4月2日に駅舎部分が開業。続いてホテル部分も6月10日にオープンを迎えた。南欧風の建物は1階が駅、旅行センターのほか、コンビニエンスストア、ベーカリー、さらにホテル直営のレストラン、2階がホテルのフロントとロビー、宴会場、3階から6階までが客室となっている。ホテルの名称は徳



ホテルも合築した6階建ての宇和島駅ビル

島にならい「ホテルクレメント宇和島」と命名。ちなみに「クレメント」は「温かな」「温暖な」という意味の英語に由来するものである。



新しい松山駅のシンボルとなった三角屋根

#### ◇松山駅のリフレッシュ

愛媛県の県都、松山市の玄関口である松山駅は1953(昭和28)年の大改装以来、大きく手が加えられることはなかった。そこで2000(平成12)年に観光の駅、坊っちゃん・マドンナの街をイメージした改築が計画され、同年8月中旬に着工、11月21日の鉄道唱歌100周年記念イベントの一環として実施されたSL列車の運転に合わせて新装オープンの運びとなった。旧制松山中学校と初代松山駅をイメージして三角屋根のエントランスを新設し、改札口付近は木目模様のレトロ調とするなど一新した。完成に合わせて、駅とワープ支店の窓口では男性が「坊っちゃん風」、女性が「マドンナ風」の制服で出迎え、「坊っちゃん弁当」「マドンナ弁当」「汽車弁当」といった特製弁当も発売され人気を呼んだ。

#### サンポート高松のオープン

JR四国のほか、香川県、高松市などにより進めてきた高松港頭地区再開発事業のうち、高松駅新駅舎、高松港旅客ターミナルビルなど同事業の中核をなす施設が完成。2001(平成13)年5月13日に開業を迎えた。再開発された地区には親しみやすい「サンポート高松」という愛称が付けられ、当日はサンポート高松のオープンを祝う行事が盛大に催された。

1994(平成6)年度以来、6年余もの期間にわたって構内移転工事が行われてきた高松駅では、2001(平成13)年5月13日8時50分から5番ホームで臨時のボンネット特急「サンポート高松号」の出発式を開催。駅長の出発合図を受け、宇高連絡船で使用されていた銅鑼の音が響く中、列車は一路大阪へと向かった。

続いてシンボルタワー建設予定地で記念式典が開催された。席上、梅原社長は「香川県と高松市の活性化の一助となるよう全力で努力し、今後はイベントなどソフト面の充実により、にぎわいを創出したい」と述べた。

さらに同年5月24日には、高松駅前に地上20階、地下1階からなる本格的シティホテル「全日空ホテルクレメント高松」もオープンを迎え、高松駅周辺は一気に開業ラッシュとなった。

この再開発計画は、JR四国の発足より早く1983(昭和58)年に高松市の発展を目指して検討が開始されたもので、港湾と都市部の一体整備であること、鉄道施設の大規模な移転・集約を伴うことなど、計画の策定に調整を要する

関係機関も多く、計画が決定したのは1987(昭和62)年。さらに、都市計画が決定したのは1992(平成4)年になってからのことであった。1991(平成3)年には臨海部の埋立が開始され、1996(平成8)年には土地区画整理事業が始まり、計画がスタートしてようやく18年後にオープンを迎えた。この間、バブル経済の到来と崩壊、さらに長引く景気の低迷など計画を取り巻く環境はめまぐるしく変化し計画の手直しが行われたため、高松駅と全日空ホテルクレメント高松の開業が先行したのである。

約9100㎡の高松駅新駅舎は4階建て。このうち900㎡を占めるコンコースは3層吹き抜け構造となっており、ホームに近い2階部分にデッキを配置、さらにデッキへの階段付近にステージとマルチビジョンを設けて、イベントによる集客と地域の活性化を図っている。また、バリアフリーの流れに沿って「人に優しい駅」を目指し、鉄道利用者がすべて平面で移動できる構造となっているのが大きな特徴である。

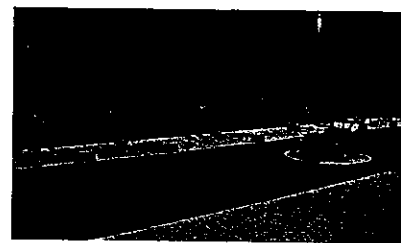
一方「全日空ホテルクレメント高松」は、JR四国グループの(株)ジェイアール四国ホテル開発が



サンポート高松オープンのテープカット

任などの各議案が原案通り承認された。続いて開催された取締役会では役員と業務分担が決定し、松田清宏専務が代表取締役社長に就任。1998(平成10)年以来6年間社長を務めた梅原利之社長は代表取締役会長に就任した。

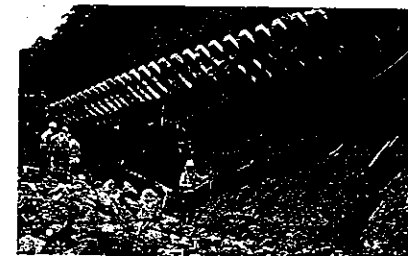
松田社長は就任後、「安全・安定輸送を根本に、魅力ある鉄道づくりにまい進すると同時に、四国とともに光り輝く企業をめざしていきたい」と抱負を述べた。



平成16年に開催された第17回定時株主総会

### 予讃線の災害

2004(平成16)年は気象庁の観測史上最多記録を更新する数の台風が日本に上陸した。この多くは四国を直撃。四国全線で運転見合わせや、多くの箇所にて冠水、築堤崩壊等の被害を受けた。中でも台風15号・21号の被害は1998(平成10)年の土讃線災害以来の大きなものであった。関川～多喜浜間を中心に多数の築堤崩壊、路盤流出、電柱損傷等の被害を受け15号では8月18日から、川之江～新居浜間でバスによる代行輸送を実施。関係者の努力によって同月24日に運転再開するまで、延べ830台のバスにより約2万3000人のお客様の

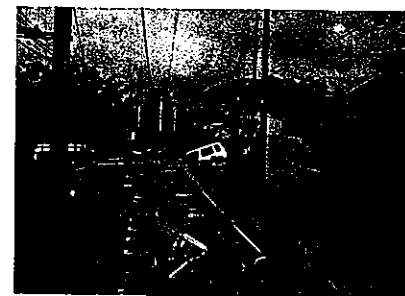


予讃線関川～多喜浜間の築堤崩壊現場

輸送にあたった。

また、21号では9月29日と10月3日から7日にかけて、バス代行輸送を行い、延べ561台のバスにより約7000人のお客様の輸送にあたった。

6月から10月にかけての災害による復旧費は合わせて約15億円にのぼり、1998(平成10)年の土讃線災害を上回るものであった。大規模災害に対する復旧事業費補助を受け、国と愛媛県からそれぞれ復旧費の25%の補助を受けた。



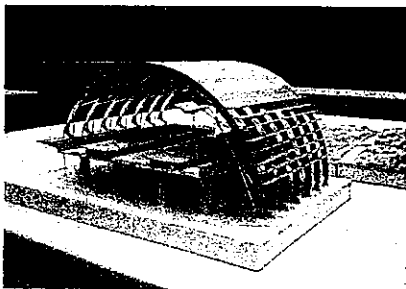
予讃線関川～多喜浜間の災害現場

### 高知駅付近の高架化工事開始

高知市内の市街地の活性化を図るため、高知県、高知市による高知駅周辺都市整備の一環として、高知、入明、円行寺口の各駅を含む約4.1kmを高架にし、11カ所の踏切を除去する連続立体交差事業が開始した。

1999(平成11)年に着工し、2001(平成13)年2月1日には地元自治体との協議、調整を行うため、従来の高知事務所を廃し、高知企画部を設置した。

2001(平成13)年2月27日には藪野駅の行き違い設備新設、2002(平成14)年3月23日には高知駅北側にあった高知運転所を布師田駅付近に移転するなど準備は着々と進行。2006(平成18)年3月11日には安全祈願祭を行い、新しい高知駅を覆う長さ60.9m、幅38.5m、高さ23.5mもの巨大な大屋根工事が本格化した。2008(平成20)年春には高架線への切り替えを実施し、2008(平成20)年度末には工事が完成する予定となっている。

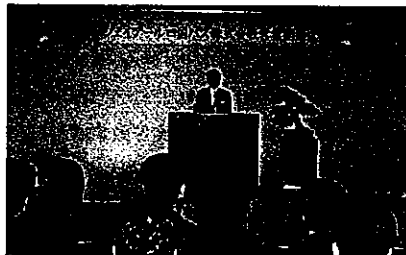


高知駅大屋根のイメージ模型

### バス事業の分社化

高速道路の開業に合わせて高速バス路線を次々と増やしていったバス事業は、2002(平成14)年度の事業収入は約32億3,000万円と、発足当初である1987(昭和62)年度の1.7倍に成長した。うち78%にあたる約25億2,000万円が高速バスによる収入であった。当時のバス業界では、規制緩和による同業他社や異業種からの新規参入によって、今後ますます熾烈な競争が予想されたため、JR四国では自動車事業の意思決定の迅速化と積極的な経営戦略の展開、徹底した効率化により安定的な事業基盤を確立するためには分社化が適切であると判断した。

このため、JR四国の100%出資により2003(平成15)年7月23日にジェイアール四国バス(株)を設立。翌年4月1日から営業を開始した。



平成16年4月1日に催されたジェイアール四国バス(株)登壇開始式

### 全国ブランドを目指す関連事業

2002(平成14)年度～2004(平成16)年度の中期経営計画では「四国発全国展開が可能

年表

明治	
年月日	内 容
20. 5.18	私設鉄道条例公布(勅令第12号)
20. 5.24	大阪市東区横堀町1丁目川口正衛、多度津村景山甚右衛門ほか16人、讃岐鉄道丸亀～琴平間の鉄道敷設の願書を愛媛県知事に上申
21. 4.10	讃岐鉄道の起工式を琴平で挙行し、多度津を起点に琴平、丸亀両方面へ着工
21. 4.27	山陽鉄道会社創立
22. 5.23	讃岐鉄道丸亀～琴平間(10マイル15チェーン〔16.4km〕)開業し8往復の列車を運転(運転時分48～50分、旅客運賃の貨率下等1マイルにつき1銭・中等2倍・上等3倍) 讃岐鉄道多度津車両修繕場設置(多度津工場の創立)
25. 6.21	鉄道敷設法公布(法律第4号)
30. 2.21	讃岐鉄道丸亀～高松間(16マイル55チェーン〔26.9km〕)開業
32. 2.16	徳島鉄道徳島～鴨島間(18.9km)開業
32. 8.19	徳島鉄道鴨島～川島(現阿波川島)間(3.8km)開業
32.12.23	徳島鉄道川島～山崎(現山瀬)間(6.3km)開業
33. 8. 7	徳島鉄道山崎～船戸(現川田付近)間(5.6km)開業し、徳島～船戸間全通
35. 6. 6	讃岐鉄道並等車の半分を仕切り喫茶室を設置(女子列車給仕の登場)
37.12. 1	讃岐鉄道会社を山陽鉄道会社が買収
39. 3.31	鉄道国有法公布(法律第17号)
39.12. 1	山陽鉄道は国有となり、高松～琴平間と岡山～高松間、尾道～多度津間兩航路を逓信省鉄道作業局に移管
43. 6.12	宇野線全通し、宇野～高松間航路を開設。旧岡山～高松間、尾道～多度津間航路は廃止
43. 7. 1	高松駅を新湊町に新築し、香川郡宮脇村から移転
44. 9.23	宇和島鉄道会社設立

大 正	
年月日	内 容
2.12.20	多度津～観音寺間(23.8km)、多度津～浜多度津間(2.2km)開業し、多度津～観音寺間の新線上に多度津駅を設け、旧多度津駅を浜多度津と改称
3. 3.25	川田～阿波池田間(40.0km)開業
3.10.18	宇和島鉄道宇和島～近水間(17.9km)開業
4. 5. 7	讃岐線海岸寺～詫間間に津島ノ宮駅を開設
4. 6.24	愛媛鉄道会社設立
5. 4. 1	多度津線観音寺～川之江間(15.7km)開業
5. 7. 1	阿波電気鉄道撫養～古川間(13.9km)開業
5.12.15	阿南鉄道中田～古庄間(10.6km)開業
6. 9.16	西条線川之江～伊予三島間(5.4km)開業
7. 2.14	愛媛鉄道長浜町(現伊予長浜)～大洲(現伊予大洲)間(15.8km)開業
8. 9. 1	西条線伊予三島～伊予土居間(11.0km)開業
9. 5. 1	愛媛鉄道大洲(若宮分岐点)～内子間(10.3km)開業
9.10.27	徳島鉄道治療所を設置
10. 6.21	西条線伊予土居～伊予西条間(25.7km)開業
10.12.17	高松鉄道治療所設置
12. 2.15	阿波電気軌道池谷～鍛冶屋原間(13.6km)開業
12. 5. 1	讃岐線伊予西条～壬生川間(12.5km)開業
12. 5.21	讃岐線琴平～讃岐財田間(12.6km)開業
12.10. 1	讃岐線壬生川～伊予三芳間(3.4km)開業
12.10. 6	讃岐線を讃予線と改称
12.12.12	宇和島鉄道近永～吉野(現吉野付近)間(8.0km)開業

年月日	内 容
12.12.21	讃予線伊予三芳～伊予桜井間(7.6km)開業
13. 2.11	讃予線伊予桜井～今治間(7.1km)開業
13. 3.30	高知線須崎～日下間(25.0km)開業
13.11.15	高知線日下～高知間(17.1km)開業
13.12. 1	讃予線今治～伊予大井(現大西)間(11.5km)開業
14. 6.21	讃予線伊予大井～菊間間(9.5km)開業
14. 7. 1	客車、貨車、機関車の自動連結器付替え作業を実施(10日完了)
14. 8. 1	高德線高松～志度間(16.3km)開業
14.12. 5	高知線高知～土佐山田間(15.3km)開業
15. 3.21	高德線志度～讃岐津田間(11.4km)開業
15. 3.28	讃予線菊間～伊予北条間(11.0km)開業

昭 和	
年月日	内 容
2. 4. 3	讃予線伊予北条～松山間(17.5km)開業
3. 1.18	阿波鉄道蛭子前～撫養間(1.1km)開業
3. 4.15	高德線讃岐津田～引田間(17.4km)開業
3. 7. 3	高知鉄道治療所を設置
4. 4.28	讃予線讃岐財田～徳島線佃間(14.9km)開業。坪尻、佃信号場を設置(坪尻信号場の使用開始は昭10.11.28、佃駅の開業は昭25.1)
4. 6. 8	松山鉄道治療所を設置
5. 2.27	讃予線松山～南郡中(現伊予市)間(11.6km)開業
5. 4. 1	讃予線を予讃線と改称
5. 6.21	高知線土佐山田～角茂谷間(15.4km)開業
6. 9.19	徳島線阿波池田～三純間(3.8km)開業
7.12. 1	予讃線南郡中～伊予上灘間(11.1km)開業
7.12.20	高知線角茂谷～大杉間(8.6km)開業
8. 7. 1	阿波鉄道古川～撫養間、池谷～鍛冶屋原間、新町橋～阿波中原間航路を買収し阿波線とする
8. 8. 1	宇和島鉄道宇和島～吉野生間を買収して宇和島線とする

年月日	内 容
8.10. 1	愛媛鉄道長浜町～大洲間、若宮～内子間を買収して愛媛線とする
9. 3.24	予土線(自)松山～久万間(33.0km)開業。松山自動車所を設置
9. 3.31	川池線(自)川之江～阿波池田間(32.0km)開業。川之江自動車所を設置
9.10.28	高知線大杉～豊水間(11.3km)開業
10. 1.25	大板線(自)土佐山田～大板間(27.0km)開業。土佐山田自動車所を設置
10. 3.20	高德線引田～坂西間(12.9km)、阿波線吉成～徳島線佐古間(4.9km)開業し、高德線が全通
10. 6. 9	予讃線伊予上灘～下灘間(5.3km)開業
10. 7.21	予土線(自)久万～佐川間(71.0km)開業し、松山～高知間自動車連絡なる
10.10. 6	予讃線下灘～伊予長浜間(10.7km)開業 内子線五郎～新谷間(3.7km)開業、同時に伊予大洲～新谷間の営業を廃止し、新谷～内子間を内子線に編入
10.11.28	徳島線三純～高知線豊永間(29.6km)開業により高知方面と多度津および徳島方面が連絡、予讃線多度津～阿波池田間、徳島線阿波池田～三純間および高知線を併合、土讃線と改称
11. 2.25	西讃線(自)観音寺～琴平間(18.0km)、琴弾公園～観音寺海水浴場間(1.0km)開業
11. 3. 1	南予線(自)近永～魚成橋間(31.0km)、土居古市～土居町間(2.0km)開業
11. 3.27	牟岐線羽ノ浦～桑野間(14.9km)開業
11. 7. 1	阿南鉄道中田～羽ノ浦間(8.5km 一般)、羽ノ浦～古庄間(2.1km 貨物)を買収し予讃線伊予大洲～伊予平野間(4.0km)開業
11.11.21	豊浜線(自)豊浜～財田大野間(9.0km)開業
11.12. 1	三島線(自)伊予三島～上分間(5.0km)開業

平成

年月日	内容
12. 6.27	牟岐線桑野～阿波福井間(6.3km)開業
12. 7. 1	新改信号場を設置
12. 8. 1	普通寺線(自)一ノ谷～普通寺間(16.0km)、仁尾線(自)普通寺大通～葛島渡船場間(17.0km)開業
13.12. 1	南子線(自)伊予大洲～魚成橋間(39.0km)開業
14. 2. 6	予讃線伊予平野～八幡浜間(9.3km)開業
14.11.15	土讃線須崎～土佐久礼間(10.9km)開業
14.12.14	牟岐線阿波福井～日和佐間(14.4km)開業
16. 7. 2	北宇和島～卯之町間(18.7km)開業し、宇和島～卯之町間、北宇和島～吉野生間を宇和島線と呼称
17. 6.20	多ノ郷信号場を設置
17. 7. 1	牟岐線日和佐～牟岐間(14.5km)開業
18.10.31	鍛冶屋原線の営業を休止
18.11. 1	鍛冶屋原線(自)板西～鍛冶屋原間(7.0km)開業
20. 6.19	四国鉄道局を開局(3部14課)
20. 6.20	予讃線八幡浜～宇和島線卯之町間(14.6km)開業。宇和島線宇和島～卯之町間を予讃線に編入し予讃線全通
20. 8. 1	四国鉄道教習所を開所。四国鉄道病院、四国鉄道局多度津物資部を設置
20. 9. 1	多ノ郷信号場を廃止
20.12. 1	四国鉄道局食糧増産部を設置
21. 5. 1	仁方～堀江間(70.0km)航路開業
21. 7.10	多ノ郷信号場を再度設置
22. 6. 1	新改、多ノ郷信号場を廃止し、新改、多ノ郷駅を開業
22. 7. 6	紫雲丸(1,480総トン)宇高航路に就航
22. 7.15	休止中の鍛冶屋原線の営業を復活し、阿波線(自)板西～鍛冶屋原間の営業を休止
22.10.20	土讃線土佐久礼～影野間(10.8km)開業。土讃線に笹場信号場を設置

年月日	内容
23. 8. 1	蛭子前を撫養に、撫養を鳴門に駅名改称
24. 6. 1	公共企業体「日本国有鉄道」へ移行
25. 3.25	紫雲丸、鷺羽丸と直島水道南口で衝突、紫雲丸は沈没し乗組員7人死亡
25. 4. 1	地方組織改正により四国鉄道管理局を開局
25.10. 1	駅連合自治体を新設。土讃線西宇を小歩危に、阿波赤野を大歩危に駅名改称。単急「せと号」「南風号」の運転を開始。宇野～高松間航路客車航送開始
26.11.12	土讃線影野～望川間(8.2km)開業
27. 3. 1	撫養線を鳴門線に改称
28. 1.15	旅客運賃(約1割アップ)改定
28. 3.26	宇和島線吉野生～江川崎間(10.3km)開業
29. 4. 1	旅客運賃改定、二等、一等普通運賃の通行税が外わく制となり、同時に二等、一等旅客運賃の免税取扱開始
30. 2. 1	旅客周遊割引乗車券発売開始
30. 5.11	紫雲丸、第三宇高丸と高松港外で濃霧のため衝突、紫雲丸は沈没、第三宇高丸は船首大破。死亡166人、行方不明2人、水没貨車15両、同手小荷物車4両。宇野～高松間航路の客車航送は中止
30.10.11	紫雲丸を瀬戸丸と改名(16日就航)
31.11. 1	予讃線に単急「いよ号」の運転を開始
33.11. 1	予讃線に準急気動車列車「やしま号」(高松～松山間)の運転開始
34. 4. 8	組織規程改正、四国支社発足
34. 9.14	高松駅棧橋待合所を廃止し、高松駅は新駅舎に移転
34. 9.15	高松駅移転に伴い、予讃線、高德線の営業キロ程を改正。高松～香西、高松～栗林間はいずれも0.3km延伸
34. 9.22	高德線に初の単急「阿波号」の運転を開始。土讃線の臨時単急「土佐号」を定期化
35. 8.20	二代目高松駅と四国支社全焼
36. 4.25	讃岐丸(1,828総トン)就航

年月日	内容
37. 4.12	徳島、土讃線単急「阿波号」の運転を開始
37.10.25	高松職員集会所(義山荘)が完成
38.12.18	中村線の一部(窪川～土佐佐賀間20.7km)新線開業
40. 9. 1	高松職員養成所を四国鉄道学園と改称
40. 9.15	予讃線高松～香西間複線として使用開始
40.10. 1	全国主要駅に「みどりの窓口」を設置
41. 3. 1	大型新鋭第一船伊予丸(3,074総トン)、宇高航路に就航
41. 3. 5	鉄道および航路運賃料金改定。運転区間101km以上の準急列車は急行列車に格上
41. 4. 6	予讃線九尾～多度津間複線として使用開始
41. 4.16	新鋭大型第二船土佐丸(3,074総トン)、宇高航路に就航
41. 9.23	土讃線多度津～箸蔵間自動閉そく式施行
41. 9.28	予讃線鴨川～坂出間複線として使用開始
42. 1.28	土讃線多度津～阿波池田間自動信号化
42. 2. 1	阿波池田に土讃線列車集中制御管理所設置
42. 3. 1	土讃線多度津～阿波池田間列車集中制御装置(CTC)使用開始
42. 7. 1	土讃線阿波池田～高知間列車集中制御装置(CTC)使用開始
42. 9.22	予讃線香西～鬼無間複線として使用開始
42.10. 1	新鋭第三船阿波丸(3,081総トン)、宇高航路に就航
43. 4. 1	定期旅客運賃の改定 12ヵ月有効通勤定期乗車券制度廃止
43. 9.15	予讃線多度津～伊予西条間自動信号化
43. 9.27	予讃線瑞穂～国分間複線として使用開始
43. 9.29	予讃線国分～鴨川間複線として使用開始
43.10. 1	予讃線多度津～伊予西条間RC装置使用開始 高德線吉成～徳島間、徳島線徳島～蔵本間RC装置使用開始 土讃線列車集中制御管理所を土讃線CTCセンターと改称

年月日	内容
	営業部に四国販売センター設置、乗車券センター、団体輸送センターは廃止
43.11.25	大歩危ずい道(4167m)新設工事竣工、本線に切替え使用開始
44. 5.10	鉄道および航路旅客荷物運賃料金改定
45. 3. 1	鳴門線撫養～鳴門間営業キロ程を1.3kmに改正
45. 3.17	予讃線伊予西条～松山間RC装置使用開始
45. 3.27	予讃線鬼無～瑞穂間複線として使用開始
45. 4. 1	四国島内の完全無煙化完了
45. 8.20	組織規程改正により四国総局発足
45.10. 1	中村線土佐佐賀～中村間(22.2km)開業
46.12.15	宇高連絡船の「別れのテープ」廃止
47. 1.16	鍛冶屋原線板野～鍛冶屋原間(6.9km)を廃止
47. 3.15	四国初の特急列車登場。予讃線「しおかぜ」、土讃線「南風」新幹線岡山開業
47. 5.21	本四連絡橋公団児島調査事務所、本四連絡橋児島～坂出ルートの橋脚建設予定地でボーリング調査開始
47.11. 8	宇高航路にホーバークラフトかもめ(23総トン)就航
48. 2.26	土讃線大杉トンネル(2,583m)開通
48.10. 1	牟岐線牟岐～海部間(11.6km)開業
49. 3. 1	予土線江川崎～川奥間(39.1km)開業し、宇和島線を予土線(北宇和島～若井間)と改称
49. 3. 9	讃岐丸を第一讃岐丸と改名
49. 7.20	新鋭船讃岐丸(3,088総トン)就航
49.10. 1	鉄道および航路旅客荷物運賃改定
50.11.20	鉄道および航路旅客料金改定
51.11. 6	鉄道および航路旅客荷物運賃料金改定
51.11. 9	栗林駅付近の高架使用開始
52. 3.15	高德線CTC使用開始
52. 7. 9	高松駅で自動券売機および乗車券発売機の使用開始



平成		内容		年月日		内容		年月日		内容	
年月日	内容	年月日	内容	年月日	内容	年月日	内容	年月日	内容	年月日	内容
54. 5.20	鉄道および航路旅客荷物貨物運賃改定		道保有機構設立準備室、日本国有鉄道清算事業団移行準備室を国鉄本社内に設置。四国旅客鉄道株式会社設立準備室の分室を総局内に置く	62.10. 9	運輸省からコンビニエンスストア、自動車販売、OA機器販売業認可される	1. 2. 1	四国開発建設株式会社、四国電設工業株式会社設立				
55. 4.20	鉄道および航路旅客荷物貨物運賃改定			62.11.16	OA機器センターを設立し、パソコン・ワープロ等のOA機器の販売を開始	1. 2.10	徳島ターミナルビル株式会社設立				
55. 4.23	ホーパークラフトとびうお(29総トン)就航(かもめは予備船に)	61.12. 4	日本国有鉄道改革法ほか7法律公布	62.12. 1	自動車小売業開始	1. 3.11	世界初の制御付振子式2000系特急気動車、土讃線にデビュー				
56. 4.20	鉄道および航路旅客荷物貨物運賃改定	62. 2. 2	日本国有鉄道清算事業団移行準備室の四国分室を総局内に置く	63. 1.29	本四備讃線列車走行試験開始	1. 4. 1	消費税導入に伴う運賃改定				
57. 4.20	鉄道および航路旅客荷物貨物運賃改定	62. 2. 5	四鉄商事株式会社設立	63. 2. 1	関西交通機械株式会社四国事業所と関西工機整備株式会社多度津営業所が合併し、株式会社四国鉄機発足	1. 5. 8	社内起業家制度発足				
57. 7. 1	仁方～堀江間航路を廃止	62. 3.23	予讃線高松～坂出間および多度津～観音寺間並びに土讃線多度津～琴平間電化部分開業。これに伴い電車(121系)の運転を開始	63. 2.19	本四備讃線児島～宇多津間列車無線使用開始	1. 5.12	四鉄不動産株式会社設立				
57.12.15	徳島線CTC使用開始		高徳線に臨時乗降場昭和町(高松～栗林公園北口間)を設置	63. 3. 1	予讃線高架化に伴い新丸亀駅が完成し、営業を開始	1. 7. 1	高速夜行バス「いよじ号」高松～松山間、「とさじ号」高松～高知間開業				
59. 4.20	鉄道および航路旅客荷物貨物運賃料金改定	62. 3.25	四国旅客鉄道株式会社創立総会開催		常時監視システム(テレメータ)使用開始	1. 7.25	琴平駅に鉄道展示館オープン				
59. 6.25	宇高連絡船の「別れのテープ」復活	62. 4. 1	四国旅客鉄道株式会社発足	63. 3.19	新装讃岐丸が観光船として就航	1.10.14	高速夜行バス「ドリーム高松」高松～東京間開業				
60. 3.14	小松島線中田～小松島間(1.9km)廃止	62. 4. 4	運輸省から貸倉庫業、海面養殖業、保険媒介代理業の3つの新規事業認可される	63. 3.20	JR四国トランクルーム営業開始	1.11. 3	丸亀駅高架下「ピコ丸亀」オープン				
60. 4.20	鉄道および航路旅客荷物貨物(コンテナを除く)運賃料金改定	62. 5. 1	JR四国保険センターを設立し、損害保険代理業として営業開始	63. 3.28	本四備讃線異常時取扱マニュアルの制定	1.11.24	旅行業システム及び仕入端末稼働				
61. 2.12	組織改正。企画開発室を廃止し、四国地区経営改革実施準備室設置	62. 5.22	「第1回事故防止対策会議」を開催。62年度事故防止合言葉「引き締める心ひとつで事故防止」と決定	63. 4. 1	中村線窪川～中村間(43.0km)を廃止。旧中村線が第三セクター「土佐くろしお鉄道」として営業を開始	1.12. 1	車内補充券発行システム試行				
61. 3. 3	内子線五郎～新谷間(3.7km)を廃止。予讃線向井原～内子間(23.5km)および伊予大洲～新谷間(5.9km)開業。大森トンネルの開通により、土讃線(多度津～窪川)の営業キロ198.9kmを198.7kmに改正	62. 6. 4	四国キヨスク株式会社設立		新制服使用開始	1.12.10	香川県宇多津町にアイススケート場開設				
	三秋信号場、大王信号場を廃止し、伊予若宮信号場を設置	62. 7. 1	高松駅など71ヵ所で国内旅行業の営業を始める	63. 4.10	総合企画本部経営企画室を設置	2. 1. 8	高徳線中流踏切(高松市)で特急うずしお2号とトントラックが衝突、乗客1名が死亡、11人が重軽傷				
61.10. 1	鉄道病院を鉄道健診センターと改称	62. 7. 8	国内旅行業の営業開始		瀬戸大橋開通。瀬戸大橋線開業。これに伴い、宇高連絡船が78年の歴史に幕を閉じる	2. 2.21	くろしお開発株式会社、株式会社四国ライズ設立				
61.11. 1	オレンジカードを13駅(高松・坂出・丸亀・多度津・観音寺・今治・松山・善通寺・琴平・高知・栗林・三本松・徳島)で発売開始。予讃線光洋台駅・鳥ノ木駅、高徳線栗林公園北口駅・木太町駅・古高松南駅・讃岐牟礼駅、徳島線鮎喰駅、牟岐線阿波富田駅、土讃線高知商業前駅・枝川駅開業	62. 8. 1	南備讃瀬戸大橋最終ボルト締結		ワンマン列車運転開始	2. 3.10	ダイヤ改正、徳島地区に1000型気動車を投入				
	土讃線高知～窪川間、牟岐線徳島～牟岐間特殊自動閉そく装置(電子符号照査式)使用開始	62.10. 1	小集団活動を導入(「パワフル活動」と命名)	63. 6. 1	本四塗装工業株式会社設立	2. 4. 1	車内補充券発行機を使用開始				
		62.10. 2	JR四国、初のダイヤ改正。予讃線坂出～多度津間(11.0km)が電化開業。この開業により高松～観音寺間、高松～琴平間の直通電車が登場	63. 6.24	第1回定時株主総会開催	2. 5. 2	高速夜行バス「ドリーム松山号」松山～東京間開業				
61.12. 3	旅客鉄道株式会社設立準備室、日本貨物鉄道株式会社設立準備室、新幹線鉄		旅行業務課を設置	63. 9. 1	丸亀ステーション開発株式会社設立	2. 8.10	高速夜行バス「どっきん松山号」松山～堺東駅前開業				
			新宇多津駅開業	63.10. 1	「四国弘済事業株式会社」から「四鉄サービス株式会社」に社名変更	2.10.26	四国旅客鉄道労働組合との間で「労使共同宣言」を締結				
			予讃線丸亀駅付近高架完成	63.11.10	詫間リゾート開発株式会社設立	2.10.30	予讃線今治駅付近高架完成				
				63.12.15	栗林高架下にコイン式洗車場を開業	2.11. 3	牟岐線文化の森駅開業				
						2.11. 8	東京都中央区新富に「ツアーセンター」を開設				

## 平成

年月日	内 容
2.11.21	予讃線伊予北条～伊予市間電化部分開業 予讃線へ2000系導入 ダイヤ改正(松山地区に7000系新型電車を投入)
2.11.30	株式会社めりけんや設立
2.12.14	高速夜行バス「オーブ号」高松～名古屋駅前開業
3. 3.16	予讃線大浦駅開業 宇高高速艇廃止
3. 3.24	瀬戸大橋線列車騒音対策で車輪フラット検出装置を児島駅付近に設置
3. 4. 1	旅行業事業部を設置
3. 4.10	「瀬戸大橋特急バス」レオマ～岡山・倉敷間開設
3. 5. 1	高速夜行バス「ドリーム高知号」高知～東京間開業
3. 7. 1	一般旅行業の営業開始、ワープワールド発売開始
3.10.22	伊予長浜駅継電化(機械信号機全廃)
3.11.21	ダイヤ改正(土讃線特急列車増発) 予讃線向井原～伊予若宮間CTC・PRC使用開始(JR四国自動化・CTC化100%)
4. 1.16	詫間リゾート開発株式会社解散
4. 2. 8	高速バス「龍馬エクスプレス」高知～岡山間開業
4. 3.14	ダイヤ改正(1000型気動車を高知(20両)徳島(4両)に投入)
4. 3.26	阿佐海岸鉄道株式会社開業、直通運転を開始
4. 4. 2	高徳線客車列車全廃(冷房化率100%達成)
4. 7.23	四国キヨスク株式会社が初の駅構外売店を高松市内に出店 ダイヤ改正(観音寺～新居浜及び今治～伊予北条間電化部分開業)
4. 9. 6	高架化工事に伴い坂出駅が仮駅舎で営業開始

年月日	内 容
4. 9.15	徳島駅新駅舎開業
4. 9.19	8000系特急電車営業運転開始
4. 9.30	土讃線「石灰列車」廃止
4.10.12	高速夜行バス「とさじ号」廃止 高速バス「黒潮エクスプレス」高松～高知間開業
4.11.30	大阪事務所移転(梅田旅行センター内へ)
4.12.20	8000系特急(試作車)瀬戸大橋上でパンタグラフ故障のため3時間止まる
5. 2.10	丸亀駅高架下に「Pico(ピコ)丸亀」オープン
5. 2.21	瀬戸大橋線真夜中の大規模訓練実施
5. 2.24	株式会社ウィリーウィンキー設立
5. 3.18	ダイヤ改正(観音寺～伊予市間電化完成8000系本格運転開始) 自動列車停止装置(ATS-SS形)の導入 総合企画本部内に高松駅周辺整備推進室を設置 新資材システム稼動
5. 4. 1	「瀬戸大橋特急線」全バス路線廃止
5. 4.24	徳島駅ビルショッピングセンター「クレメントプラザ」オープン
5. 5. 1	新経理システム稼動
5. 5.19	四国観光立県推進協議会を四国4県とともに設立
5. 5.31	くろしお開発株式会社解散
5. 7. 2	ホテルクレメント徳島オープン
5. 7.20	特急列車用定期乗車券「快てーき」発売開始
5. 7.27	高徳線佐古駅付近高架化開業
5.10. 1	ダイヤ改正(高松～多度津間複線化工事完成) 土讃線特急は全て2000系に 東京都中央区新富の「ツアーセンター」に替えて日本橋に「ワーブラザ日本橋」を開業
5.12. 1	「瀬戸大橋特急線」高松・レオマワールド～岡山・倉敷間の運行休止
5.12.24	四国鉄道荷物株式会社が鉄道用品株式会社を吸収合併、社名を「四鉄運輸株

年月日	内 容
6. 4.22	式会社」に変更 久万高原駅(バス)開業
6. 6. 1	駅収入管理システム稼動(55駅) 特急・急行料金を25kmまでの地帯を新設
6. 7.20	夜行高速バス「オーブ号」の高知延長開始
6. 8. 3	松山保養所(道後荘)廃止
6. 9.20	高知駅西バスターミナル設置、高知駅発着便の利用開始(0.1km路線延長)
6.10.18	第1回鉄道の日四国運輸局長表彰式典、記念祝賀会開催(高松)
6.11.17	高速バス「マドンナエクスプレス」松山～岡山間、「坊っちゃんエクスプレス」松山～高松間開業、高速夜行バス「いよじ号」廃止
6.12. 1	「瀬戸大橋特急線」全バス路線廃止
6.12. 3	ダイヤ改正(しおかぜ・いしづち増発、禁煙列車・車両拡大) 予讃線「高瀬大坊駅」を「みの駅」に改称
7. 1.17	阪神・淡路大震災発生
7. 3. 1	全線区ATS-SS化(場内・出発信号機直下用)
7. 4. 1	阪神・淡路大震災による東海道・山陽本線の不通区間が復旧
7. 4. 5	ダイヤ改正(松山～宇和島特急2往復増発)フリーダイヤルによる「列車運転状況案内サービス」開始
7. 4. 8	阪神・淡路大震災による山陽新幹線の不通区間が復旧
7. 9.20	予讃線全通50周年、高徳線全通60周年、土讃線(多度津～須崎)開通60周年を記念して硬券入場券「駅物語」を発売
7.10. 1	規程改正実施(A判化、準則化、体系見直し)
7.11. 1	高速バス「坊っちゃんエクスプレス」、「マドンナエクスプレス」に割引回数券を設定
7.12. 8	ジェイアール四国エムエスネットワーク株式会社設立
7.12.12	宇和島ステーション開発株式会社設立

年月日	内 容
8. 1.10	運賃改定実施(平均値上げ率6.7%)
8. 3.16	ダイヤ改正(徳島線特急化、徳島～高知直通特急1往復)
8. 3.23	高速バス「どっきん松山号」大阪シティエアーターミナル(OCAT)乗り入れ
8. 3.28	大型セルフうどん店として、めりけんや1号店「かけはし店」(宇多津町)を開業
8. 4. 1	旅行業経理システム、人事発令システム運用開始
8. 4.26	新型電車6000系営業運転開始
8. 5.24	コンビニエンスストア「ミニストップ」1号店(春日店)開業
8. 8. 1	「平成8年8月8日」記念乗車券を発売
8. 9.26	四国旅客鉄道労働組合及び国鉄労働組合四国本部との間で「総合労働協約」を締結
8.11. 1	高速バス「黒潮エクスプレス」、「龍馬エクスプレス」に割引回数券設定 同路線ダイヤ改正
8.11.24	観光船「讃岐丸」の最終航海記念式
9. 2.21	「6枚回数券」の発売開始
9. 2.26	予讃線坂出駅付近高架完成
9. 3.22	ダイヤ改正(宇和島～岡山間の「しおかぜ」増発)
9. 3.27	高松JR第2ビルの竣工式
9. 4. 1	中長期経営計画1997～2001がスタート 消費税率引き上げに伴う運賃改定
9. 4.22	大阪事務所が大阪市北区芝田に移転
9. 5. 1	「快てーき回数券」を発売開始 JR四国ホームページを開設
9. 5.20	新総合指令所において列車運行管理システムの使用開始
9. 5.24	予土線京観対策「グリーンアップしまんと」実施
9. 5.30	運転成績優良社員に係る社長表彰制度を新設
9. 6. 1	高松駅周辺整備推進室を総合企画本部から独立させ、高松港頭地区開発推進室を設置

平成		年月日		内容		年月日		内容	
9. 6. 5	新本社ビル竣工式	10. 4. 2	ノ浦、牟岐、穴吹、阿波池田、土佐山田) 予讃線宇和島駅新駅舎開業	10.12. 2	高徳線八栗口駅に行き違い設備新設	12. 3.12	高速バス「吉野川エクスプレス」松山～阿波池田～徳島間開業		
9. 6.24	週末祝日に運賃料金が40%割引、「YOUNG WEEKEND CARD」受付開始	10. 4. 5	明石海峡大橋開通。臨時特急列車「あい」(徳島-阿波池田)運転開始	10.12.25	土讃線全線運転再開	12. 3.31	連結決算システム(ファルコン)利用開始・被服システム利用開始		
9. 7. 1	「座れーるきっぽ」・岡山方面「快てーき」発売開始	10. 4. 6	都市間昼行高速バス「阿波エクスプレス」徳島～大阪間・徳島～神戸間・徳島～舞子間開設	11. 2. 1	安全推進室、営業部を設置 運輸部計画課を廃止	12. 4. 1	SS(セーフティ・スタビリティ)運動実施 インターネットショップ「夢四国」営業開始		
9. 7. 7	東京事務所を東京駅丸の内北口前から東京都千代田区有楽町に移転	10. 4.10	瀬戸大橋線開業10周年「海走SL瀬戸大橋号」運転	11. 3. 1	高速バス「阿波エクスプレス」徳島～京都間開業	12. 4.21	「ドリーム高松・松山号」に新型二階建て車両導入		
9. 7.10	宇和島駅ビル上棟式	10. 4.17	高徳線志度駅橋上化	11. 3.10	自動遊間測定車導入	12. 4.22	停留所「鳴門撫養」を「高速鳴門」に改称		
9. 7.26	全国トロッコ列車協議会を設立	10. 4.23	徳島線一線スルー化(府中、石井、牛島)	11. 3.12	急行列車「よしの川」運転終了	12. 4.24	四国開発建設株式会社がISO9001認証取得		
9. 7.27	予土線(窪川～宇和島間)愛称「しまんとグリーンライン」を使用開始	10. 4.30	早期退職優遇制度(期間限定措置)を実施	11. 3.13	ダイヤ改正(高徳線高速化事業全工事完了、牟岐線特急列車「むろと」登場)	12. 5. 3	宇和島駅構内で「鉄道唱歌100年・宇和島城400周年記念イベント」開催		
9. 7.28	予土線初の特急列車「I LOVE しまんと」季節運行開始	10. 5. 1	「香川中部セールスセンター」を設置	11. 3.16	今治駅高架下「NEXT21」オープン	12. 6. 1	経営企画部、広報室を設置		
9. 8. 1	財務部に資金課と経理課を設置	10. 6.10	ホテルクレメント宇和島開業	11. 4. 1	組織改正(エリア駅制導入、ワープ支店)	12. 7. 1	愛媛企画部、大阪営業部を設置 徳島線(徳島～阿波池田間)愛称「よしの川ブルーライン」使用開始		
9. 8.22	株式会社ジェイアール四国企画、株式会社ステーションクリエイティブ香川・愛媛・徳島・高知設立	10. 7.11	ダイヤ改正(高徳線、徳島線の高速化工事完成)	11. 4.20	「事故防止対策会議」を「安全推進委員会」に改称し開催	12. 7.15	市坪駅改良スロープ新設及びホーム幅拡張完成		
9. 9. 1	本社内の事務改善(社内LAN)システムを稼働	10. 7.19	「しまんとグリーンライン」サイクル列車の運転開始	11. 5. 2	高速バス「キララエクスプレス」松山～広島間開業	12. 8.12	木四備讃線、予讃線(高松～多度津)防護無線使用開始		
9.10. 1	土佐くろしお鉄道株式会社宿毛線開業、特急列車を宿毛まで延長運転	10. 8. 7	高速夜行バス「オリーブ松山号」松山・池田・徳島～名古屋間(明石海峡大橋経由)開業	11. 5.25	「町の駅長さん」委嘱式	12. 8.17	ダイヤ修正(「ミッドナイトEXP」(高松～伊予三島間)運転開始)		
9.10.28	株式会社ジェイアール四国ホテル開発設立	10. 9.10	「四万十りんりんサイクル」開始	11. 7. 1	「株式会社四国観光弘業」から「株式会社高松駅弁」に社名変更	12. 9.30	鳴門線鳴門駅第1種継電連動化、CTC制御駅化		
9.11.14	第1回新本社ビル火災訓練を実施	10. 9.24	土讃線豪雨災害発生(繁藤～新改間、土佐山田～高知間)	11. 7.21	「サンライズ瀬戸」松山延長運転(不定期)開始	12.10.14	土讃線の特急列車「南風」に「アンパンマン列車」を運転開始		
9.11.18	瀬戸大橋線の利用者1億人達成	10. 9.30	高徳線高松～屋島間自動信号化(閉そく信号機新設)	11. 7.31	四鉄商事株式会社解散	12.11.17	坂出駅高架下「COM坂出」開業		
9.11.29	ダイヤ改正(特急列車の増発)	10.10. 3	ダイヤ改正(新製2000系車両追加投入、高徳線「うずしお」増発)	11. 9. 1	「アイランドエクスプレス四国Ⅱ」営業開始	12.11.21	松山駅リフレッシュ工事完成 予讃線松山～宇和島間でSL「坂の上の雲」「花神」号運転		
9.12. 6	宇和島～土佐大正間で「SL牛鬼号」運転	10.10. 5	土讃線土佐山田～高知間の全普通列車運転再開	11.10. 1	「四国再発見増収キャンペーン」開始	13. 2. 1	高知企画部を設置		
9.12.20	高松駅の営業を仮駅で開始	10.10.10	四鉄不動産株式会社「オレンジタウン」販売開始	11.10.20	西暦2000年問題対策における総合訓練実施	13. 2.19	国分駅の上りホームを約90m高松駅寄りに移設し使用開始		
10. 3. 1	高速夜行バス「どっきん松山号」松山～堺東駅前間休止	10.10.14	「四国全線通行手形」発売	11.11. 1	高速バス「キララエクスプレス」廃止 四国4県の公安委員会の指定自動車教習所に踏切支障報知装置講習用機器を寄贈				
10. 3. 8	大阪駅と神戸駅で「おほけトロッコ列車」と「I LOVE しまんと号」の車両展示会を開催	10.11. 1	「JR四国グループ営業ネットワーク」発足 増収・経費削減運動「スクラム4000」実施	11.12.20	高速バス「高松エクスプレス神戸号」高松～神戸間開業				
10. 3.14	高徳線オレンジタウン駅開業	10.12. 1	「ワープブラザ日本橋」の閉鎖		高速夜行バス「ドリーム高松号」と「ドリーム松山号」を統合				
10. 3.30	「網紀の確立に関する指針」制定		東京事務所内に営業部の東京在勤を配置		予讃線高松貨物ターミナル駅新設に伴う鬼無駅連動化				
10. 4. 1	「車deトレイン」の営業開始(三本松、羽				12. 2. 1	予讃線高松貨物ターミナル駅新設に伴う鬼無駅連動化			
					12. 3. 1	内子駅エレベーター使用開始			
					12. 3. 4	高松駅新駅舎の起工式開催			

年月日	内 容
13. 2.27	土讃線御野駅行き違い設備完成に伴い、同駅を多度津寄りに100m移設
13. 3. 3	ダイヤ改正(「南風」2往復増発、臨時特急「ミッドナイトEXP高松」・「ミッドナイトEXP松山」を毎日運転)特急の禁煙車両ではデッキも禁煙に
13. 3.15	「四国自由自在きっぷ」発売開始
13. 3.24	芸予地震発生
13. 3.30	松山駅構内で小型蒸気機関車「坊っちゃん列車」運転(子規100年祭in松山) 高速バス「高松エクスプレス大阪号」高松～大阪間、「高松エクスプレス京都号」高松～京都間、「高徳エクスプレス号」高松～徳島間開業、「高松エクスプレス神戸号」増便
13. 3.31	高速バス「阿波エクスプレス大阪号」・「高松エクスプレス大阪号」USJまで路線延長
13. 4. 1	各箇所と全てのグループ会社を相互接続したコンピュータネットワーク「JR四国グループネット」使用開始 定年退職者のグループ会社等での再雇用制度を開始
13. 4.18	本社内電子決裁(ワークフロー)システムの稼働
13. 4.25	土讃線後免駅新駅舎開業
13. 5.13	新高松駅開業(音声誘導装置、盲導鈴使用開始) 高松駅バスターミナル開設、高松バスプラザ移転
13. 5.24	全日空ホテルエレメント高松開業
13. 6. 1	高松港頭地区開発推進室を廃止
13. 7. 1	株式会社ステーションクリエイティブ香川が、丸亀ステーション開発株式会社と合併
13. 7.18	「2001年全国トロッコ列車サミットinしまんと」を中村市及び西土佐村(現・四万十市)で開催
13. 7.25	高松港頭地区開発高松駅構内最終切替
13. 7.28	「グローバルキャンプ指導者養成講座」

年月日	内 容
	初開催
13. 7.30	「四国・カナディアン・グローバル・キャンプ」を開催
13. 8. 1	「パスデイクきっぷ」発売開始
13. 8.15	「敬老の日」記念きっぷ発売開始
13.10. 1	ダイヤ改正(予讃線特急「しおかぜ」「いしづち」「宇和海」にアンパンマン列車がデビュー 土讃線のアンパンマン列車リニューアル)
13.10.19	株式会社めりけんや岡山駅構内に「きぬきうどん職人岡山駅店」開業
13.10.27	高速バス「阿南エクスプレス」阿南～大阪間開業
13.11.16	土讃線普通寺駅本屋が国の登録有形文化財に指定
13.11.23	土讃線土佐山田～高知間で「SL土佐龍馬号」を運転
13.12.15	「アンパンマン列車スタンプラリー」開始
13.12.20	「ドリーム高松・松山号」にレディースシート設置
14. 1.17	端岡駅、鴨川駅追越設備(4線化)使用開始
14. 3.23	新高知運転所使用開始 ダイヤ改正(快速「サンポート号」運転開始)
14. 3.30	高速バス「高知徳島エクスプレス」高知～徳島間開業
14. 4. 1	キャッシュ・マネジメント・システム(CMS)のプーリングを導入、グループ会社23社との資金貸借開始 中期経営計画2002～2004がスタート
14. 4.27	高速バス「高松エクスプレス大阪号」丸亀まで路線延長 JRグループと四国高速バスグループの高松～大阪間の高速バスの共通乗車を開始、両グループで26往復を28往復に増便し丸亀～大阪間を8往復から14往復に増便
14. 5.17	徳島線徳島～阿波川島駅間で「SL阿波四国三郎号」を運転

年月日	内 容	年月日	内 容
14. 6. 1	岡山企画部を設置		の使用開始
14. 7. 1	牟岐線(徳島～牟岐間)及び阿佐海岸鉄道(海部～甲浦間)の愛称「阿波室戸シーサイドライン」使用開始 土佐くろしお鉄道株式会社「ごめん・なはり線」(後免～奈半利間)開業	15. 3.20	JR線と土佐くろしお鉄道線にまたがる区間の回数券を発売開始
14. 7. 2	高知県中村市(現・四万十市)に「四万十の宿」開業	15. 3.21	「マドンナ倶楽部」を四国4県で発売開始
14. 7.13	予讃線市坪駅に「の・ボール」駅と愛称命名(愛称決定記念入場券を発売) 予讃線市坪駅の行き違い設備改良	15. 4. 1	鉄道人身事故対応標準を施行
14. 7.19	単身用社宅として徳島市佐古に「ラ・フォーレ佐古」を2棟新築	15. 4.16	徳島～大阪間の高速バスで、携帯電話を利用した「高速バスモバイルチケット」サービスを開始
14. 8. 3	「MEDIC FIRST ADI(R)」初開催	15. 4.24	フリーゲージトレインの夜行走行試験を予讃線高松～松山間で開始 株式会社めりけんやが大阪府吹田市の江坂東急ビル1階(東急ハンズ横)に関西1号店開業
14. 8.25	株式会社日本レストランエンタプライズとの業務提携により、株式会社めりけんやが首都圏進出の第1号店をJR山手線恵比寿駅構内に開業	15. 4.25	高速バス「徳島岡山エクスプレス号」徳島～岡山・倉敷間開業
14. 9. 1	松山～高知間バス「なんごく号」廃止	15. 5. 1	高知バスプラザ開設(高知ワープから移管)
14.10. 1	「株式会社四国ライズ」から「株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア」に社名変更	15. 6. 1	徳島企画部を設置
14.10. 4	四国電設工業株式会社がISO9001:2000認証取得	15. 6. 6	株式会社めりけんやが株式会社モンテローザとのフランチャイズチェーン1号店三軒茶屋店を開業
14.10. 6	高徳線の特急「うずしお」および徳島線の特急「剣山」に「ゆうゆうアンパンマンカー」登場	15. 6.14	瀬戸大橋線における異常時訓練を実施
14.10.21	「JR四国グループホテル連絡会」を設置	15. 6.24	自宅のパソコンプリンターできっぷが発券できる高速バスインターネット乗車票発行サービスを開始
14.11. 1	ゆめタウン(高松市)の駐車場を利用し、パーク&バスライドを開始	15. 7.23	ジェイアール四国バス株式会社を設立
14.12.20	高速バス「高知エクスプレス大阪号」高知～大阪間開業	15. 8. 1	盛夏衣の見直し(盛夏衣接客服開襟半袖→盛夏衣接客シャツ半袖) 高速バス「松山エクスプレス大阪号」を西日本JRバスと共同運行開始(1日4往復)、松山バスプラザ開設
15. 1. 6	「マドンナ倶楽部」発売開始(香川県内発コース)	15. 8.26	土讃線阿波川口駅構内で列車火災発生、JR四国で初めて航空鉄道事故調査委員会が調査
15. 1.15	「阪神往復フリーきっぷ」発売開始	15. 9. 1	キャッシュ・マネジメント・システム(CMS)のネットینگ及び支払代行を開始
15. 2. 5	丸亀～高松～大阪間の高速バスでポイントサービス実施(10個で片道乗車券と引き換え)	15. 9.18	株式会社ジェイアール四国アーキテクツを設立
15. 2.20	徳島駅跨線橋に設置したエレベーター	15. 9.19	岡山駅東地下改札口に「四国情報コーナー」を設置

平成	
年月日	内容
15.10. 1	ダイヤ改正(新型マリンライナー運転開始) 電気指令効率化、電気指令作業支援システム運用開始
15.10.14	インターネットを利用した電子調達システム稼働
15.11.19	牟岐線阿南駅橋上化
15.11.27	宇野線・本四備讃線高速化事業として第三セクター会社「瀬戸大橋高速鉄道保有株式会社」発足
15.12. 1	「鉄道災害時の安全対策に関する覚書」を当社線路沿線の消防機関(四国4県41消防機関)と交換
15.12. 9	土佐くろしお鉄道荷船～伊与喜間土砂崩壊発生
15.12.20	高速バス「高知エクスプレス神戸号」高知～三ノ宮・新神戸間開業
15.12.25	粟島で初の「粟島ウィンターキャンプ」を開催
16. 1. 2	土讃線大杉駅舎が焼失
16. 2. 1	高速バス「高知エクスプレス大阪号」高知～大阪間、「松山エクスプレス大阪号」松山～三ノ宮・大阪間開業
16. 3. 1	高速バス「高知エクスプレス号」須崎～京都間開業
16. 3.31	ジェイアール四国エムエスネットワーク株式会社の全株式及び四国エリアのフランチャイズ事業をミニストップ株式会社へ譲渡
16. 4. 1	JR四国情報システム株式会社設立(株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェアより分社) エコロジー推進委員会を設置 ジェイアール四国バス株式会社営業開始 ゆめタウンバスプラザ開設
16. 4.27	自然体験活動推進協議会(CONE)指導者養成団体として認定
16. 6. 1	四国の食材を100%使用したスープ「SHICOOK SOUP 空海」8品目で発

年月日	内容
	売開始 分煙設備のある高松駅を除き、駅の待合室・コンコースを終日禁煙
16. 6. 4	「JR四国自然体験活動指導者養成講座」を初開講
16. 6.25	決算公告を官報からホームページに変更(第17期から)
16. 7.16	高速バス「高知エクスプレス大阪号」須崎～三ノ宮・大阪間、「松山エクスプレス大阪号」八幡浜港～大阪間開業
16. 7.31	台風10号による災害発生
16. 8. 1	東予営業推進プロジェクトを設置
16. 8. 4	台風10号災害運転再開
16. 8.18	台風15号による災害発生(関川～新居浜間)
16. 8.24	台風15号の影響で運行不能となりバス代行を実施していた川之江～新居浜間が運転再開
16. 9.18	新型マリンライナーが「2004年ブルーリボン賞」を受賞
16. 9.28	台風21号による災害発生(観音寺～壬生川間)
16.10.16	台風21号の影響で運行不能となっていた観音寺～壬生川間が運転再開
16.10.20	台風23号による災害発生(観音寺～伊予西条間)
16.10.28	台風23号の影響で運行不能となっていた観音寺～伊予西条間が運転再開
16.11. 1	高松駅など10駅7運転区所にサービス介助士2級の資格取得者17名を配置
16.12.17	都市間高速バス「ニュードリーム徳島高松号」高松・徳島～新宿間、「瀬戸内エクスプレス号」高松～広島間開業
16.12.20	リニューアル8000系の運行を開始
17. 2. 1	ホームページ上での列車運行情報の提供開始 運転事故報告システム、運転事故速報システム運用開始

年月日	内容
17. 2.17	高知鉄道寮(くろしお寮)廃止、単身者用社宅「ラ・フォル朝倉」新築
17. 2.25	丸亀駅エレベーター使用開始
17. 3. 1	ダイヤ改正(「のぞみ」との接続改善、「宇和海」「うずしお」「剣山」の増発など)一部の特急「いしづち」にレディースシートを設定 リニューアル8000系の指定席車内改札の省略
17. 3. 2	土佐くろしお鉄道宿毛駅構内で列車脱線事故が発生
17. 3.12	土讃線大杉駅が大豊町の地域振興施設「とまレール大杉」として再建
17. 3.25	終端防護用ATS地上子設置開始(7駅)
17. 4. 1	SS運動Ⅱの実施 営業部営業企画課南予営業推進室を設置 新旅行業システムの導入 中期経営計画2005～2007がスタート ホームページ上でのお客様からのご意見受付を開始
17. 4.25	福知山線で列車脱線事故発生
17. 6. 1	駅収入金回収業務の直轄化開始
17. 7. 1	フリーダイヤルの列車運転状況案内サービスを線区別の案内に変更
17. 7.28	高松から粟島までヨットで体験航海する「JR粟島ヨットクルージング」を初開航
17. 8. 1	安全網領を改正
17. 8. 9	終端防護用ATS地上子設置完了(7駅)
17. 9. 1	25kmまでの「快で～き回数券」を設定 高松中央インターバスターミナル開設
17.10. 1	国土交通省が主催する「鉄道でエコキャンペーン」に参加
17.10.28	SL急行「讃岐路義経号」高松～多度津間を運転
17.11. 1	高知社員集会所(土佐荘)廃止 土佐くろしお鉄道東宿毛～宿毛間8カ月ぶりに運行再開

年月日	内容
17.11.22	牟岐線北河内～日和佐駅間で地震・津波防災訓練実施
17.12. 1	高速夜行バスの愛称変更「ドリーム徳島高知号」、「ドリーム徳島高松号」
17.12. 7	曲線速度照査用ATS地上子緊急整備箇所設置完了(国土交通省基準の33カ所)
17.12.25	羽越本線で列車脱線事故発生
18. 2.16	神戸空港開港に伴い「阿波エクスプレス神戸号」延伸
18. 3. 1	強風対策として、予讃線伊予三島～伊予土居間、高德線吉成～佐古間で、早め規制(風速25m/s以上で一時運転見合わせ)を実施 駅番号表示(駅ナンバリング)を導入
18. 3.31	新財務システムが稼働
18. 4. 1	IT営業計画室を設置 国民保護法に基づき「国民保護業務計画」を作成 公益通報相談室を開設
18. 5.25	新型1500型気動車営業運転開始
18. 6. 1	徳島～鳴門間に臨時快速「鳴門きんときライナー」を設定し11月30日まで運転 高松運転所で車両修繕と構内入換の業務を四国車輛整備株式会社へ委託
18. 7. 1	「四鉄不動産株式会社」から「よんてつ不動産株式会社」に社名変更 「四国車輛整備株式会社」から「株式会社ジェイアール四国メンテナンス」に社名変更
18. 9.21	曲線速度照査用ATS地上子緊急整備箇所設置完了(JR四国独自基準の29カ所)
18.10. 6	アンパンマントロッコ車両が登場。高知駅で出発式を開催
18.10.15	株式会社めりけんやがJR岡山駅「サンステーションテラス岡山」内に新店舗開業
18.11.23	SL急行「土佐二十四万石博一豊&千代号」高知～須崎間を運転
18.12. 1	高知地区において臨時特急「ウィークエンドエクスプレス高知」を運転

(注)JR四国発足以前の項目は主なもの掲載しています。詳しくは弊社発行の「四国史」(平成元年6月20日発行)をご参照ください。